

| 2014年度 前期 | | リフレクションペーパー | | | | | | |
|-------------------|--|-------------|-----------|------|------|-----|------|----|
| 学科名 | 生物環境化学科 | | | | | | | |
| 科目名 | 環境化学 I | | | | | | | |
| 科目区分 | 専門科目 | 単位数 | 2 | 開講時期 | 2年前期 | | | |
| 必修・選択の別 | 選択科目(バイオサイエンスコース)／選択科目(食品生物資源コース)／選択科目(エネルギー・環境コース) | | | | | | | |
| 担当者 | 菅野 憲一 | | | | | | | |
| 授業の到達目標(シラバスから) | <ul style="list-style-type: none"> ・環境基本法の概要、7大公害病、9大地球環境問題を説明できる。 ・気候変動、オゾンホール、砂漠化、生物多様性、エネルギー問題について説明できる。 ・水質汚濁の原因や処理技術を説明できる。 ・産業廃棄物のリサイクル方法について説明し、今後の課題について提案できる。 | | | | | | | |
| 日程と内容 | <p>4/11 導入講義、環境基本法、各種基本計画、各種白書を通じて環境問題に関する知識を修得。 4/18 地球温暖化と気候変動枠組条約およびIPCCの知識を修得。 4/25 オゾンホールとウィーン条約、モントリオール議定書、大気汚染の現状を修得。 5/2 水質汚濁と大気汚染およびそれらの指標を修得。 5/9 有害物質の人体への影響と環境基準および近年の達成度を修得。 5/16 水質汚濁と排出源を修得。 5/23 污水处理技術①物理化学処理を修得。 5/30 污水处理技術②生物処理を修得。 6/6 污水处理における各種計算方法を修得。 6/13 水質有害物質処理(重金属など)に関する知識を修得。 6/20 水質有害物質処理(重金属以外)に関する知識を修得。 6/27 処理水の再利用と大規模設備の水質汚濁防止対策を修得。水の合理的な利用を学ぶ。 7/4 廃棄物とリサイクルに関する知識を修得。 7/10 生物多様性条約、砂漠化対処条約と水。砂漠化と森林の役割についての知識を修得。 7/17 スターンレビューとT E E B。環境保全と経済活動の知識を修得。 7/25 定期試験</p> | | | | | | | |
| 成績評価基準 | 定期試験 | 100% | 実技 | 0% | 臨時試験 | 0% | 部外評価 | 0% |
| | 報告書・レポート | 0% | プレゼンテーション | 0% | 課題 | 0% | | 0% |
| | 演習 | 0% | 計 | 100% | | | | |
| 授業到達目標の達成度 | <ul style="list-style-type: none"> ・環境基本法の概要、7大公害病、9大地球環境問題を説明できる。:達成した。 ・気候変動、オゾンホール、砂漠化、生物多様性、エネルギー問題について説明できる。:達成した。 ・水質汚濁の原因や処理技術を説明できる。:達成した。 ・産業廃棄物のリサイクル方法について説明し、今後の課題について提案できる。:達成した。 ・食品の安全、HACCPについて説明できる。:達成した。 | | | | | | | |
| 反省点 | <p>合格率93%、合格者の平均点は84点であった。やや難解な内容であったが合格率、平均点共に高い結果となった。今年度から新しく(社)産業環境管理協会から出された本を教科書に導入したため、自習しやすくなったためかもしれない。 公害防止管理者資格の対策となる内容を講義したが、資格に興味をもつ学生は多くなかったようだ。</p> | | | | | | | |
| 来年度の計画 | 就職対策などにおいても国家資格の取得は望ましいので、公害防止管理者資格に興味を持ってもらえるように工夫したい。 | | | | | | | |
| 授業評価アンケートに対するコメント | 総合評価の平均は8.5点であった。 | | | | | | | |
| 履修登録者数 | 63名 | 定期試験受験者数 | 60名 | 合格者数 | 56名 | 合格率 | 93% | |